

令和5年度 前期授業評価アンケート 教科報告書

北海道網走南ヶ丘高等学校

1. 概要

本報告書は、令和5年7月に全年次を対象に実施した、授業改善を目的とする授業評価アンケートの結果に基づき、教員間で会議を行い、今後どのように活かすのかをまとめたものになります。

なお、詳細なアンケート結果については公表しかねますので、ご了承ください。

2. 各教科における共通項目

(1) 授業改善についてどのような課題が明らかになったか。

(2) アンケート結果を役立てることで、授業のどのような点を変えたり見直したりする予定なのか。

	Q. 授業改善についてどのような課題が明らかになったか
国語	現代文分野・古典分野ともに授業が十分に満足できないという生徒が一定数いたので、後期に向けてより一層満足できる授業展開が必要。ペア・グループワーク、振り返り学習を充実させる他に、他教科の状況を見ながら、家庭学習で授業内容の定着を図っていきたい。
地歴公民	全体的に考察する時間の不足を感じている生徒が一定数いることから、授業の中でペア学習やグループワークなどの活動や考察する学習内容のプリント作成などの取組を増やすことが課題であると感じた。また、学習した内容の定着を図る時間の確保をしていきたい。
数学	生徒同士の教え合いや取り組みの時間を設けられていないところや、前時までの内容が定着しないまま授業を受けている生徒が多いところが課題である。習熟度別授業では少人数というメリットがあるものの、対応する生徒が偏らない工夫も必要であると感じた。
理科	グループ学習を取り入れにくい状況がある。実験はするが、教室で机をくっつけて話し合うような活動はしていない。考えたり、活動したりする機会が多くないと感じている生徒がいる。 活動したりする時間が多いと答えても、わかった実感が伴うとは限らない点に課題がある。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスにより理解度に差がある。 ・生徒の授業への取り組みや頑張りをできるだけ評価に反映させる。 ・種目毎の目標、授業の要点やポイントを詳細に伝え、生徒が主体的に取り組める環境づくり。 ・グループワーク（クロムブックや動画など）の充実。
家庭科	授業の取り組みが適切に評価されていないと感じている生徒が一定数いることから、授業と評価の一体化がうまくいっていないという点が課題だと感じる。また、実習やグループワークなどの活動的な授業も少ないと感じている生徒がいるという点も課題であると感じた。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、授業目的を大きく踏み外している様子は見られものの、評価が適切になされていないと感じている生徒がいるようである。 ・理解・定着のために（通常の学習活動同様に）反復であると考えているが、齟齬があると感じたようだ。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスにより理解度の差がある。 ・ペア・グループ活動（クロムブック使用を含め）の不足。 ・生徒の頑張りをできるだけ評価に反映させる。 ・教科書の難易度が生徒の実態に合っていないため、理解度に差があり、進度も遅くなっている。
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで差はあるが理解度と授業の進め方の速度に問題がある生徒が存在する。 ・クラスで差はあるが少数の生徒が取り組みや頑張りを評価に反映されていないと感じている。

	Q. アンケート結果を役立てることで、授業のどのような点を変えたり見直したりする予定か。
国語	教科内での情報を共有して、3年間を見据えて授業を作っていく。ペアやグループで活動する時間、個人で活動する時間、教員による確認の時間など授業のバランスも考えていきたい。授業の復習としての課題を求める生徒もいるので、定期的に課題を課す検討する。また、タブレットの効果的な活用を考える。
地歴公民	各教科の授業の様子の情報交換、打ち合わせなどに取り組み、考える活動の増加に努めたい。年度当初から評価基準を明確にし、事前に生徒に周知をして授業を行うように指導していたが、後期はより一層観点別評価の材料を増やし、評価方法をより生徒がわかりやすく理解できるように心掛けたい。
数学	数学科内で授業の内容や方法を共有して改善に努めたい。また生徒が活動する場面や教員と生徒の双方向のやりとりを増やしていく工夫をしていきたい。授業の他、継続的に授業内容を定着させるための取り組みも必要だと考える。
理科	昨年より改善しているので授業スタイルを見直すつもりはない。昨年より改善しているので、今年1年は今の授業スタイルを続けたい。演習実験の工夫をし、考える活動の増加に繋げたい。提出物を増やし、一人で考える時間の増加と言語化によるわかった実感を得られる機会の増加を図る。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって授業の進め方や取り組み方を工夫する必要がある。 ・評価基準の明確化 ・要点やポイントを詳細に伝え、いくつか目標を設定する。 ・教員間で連携を図りグループワークの充実（クロムブックや動画など）を図る。
家庭科	評価基準を明確にし、事前に生徒に周知をして授業を行うよう意識していたが、今後はさらに提出物や小テストなど細かく行うなどして、評価が単純にわかる機会を多く取り入れる。授業の単元的にも今後は実習も多くなるため、意識して実施する。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に見合った単元設定、教材の工夫、評価に必要な材料を集める必要がある。 ・授業の目的や評価の在り方について、プリントやガイダンスにより丁寧な説明を加える必要がある。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって授業の進め方を工夫する必要がある。 ・教員間で情報共有しペア・グループ活動の充実（クロムブック使用を含め）を図る。 ・小テストの出題方法や配点を工夫することで細かく評価できるようにする。 ・教科書の扱う単元を精選する。
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・より一層、生徒ひとりひとりの実習作業をこまめに考察し迅速に対応する。 ・単元ごとの小テストの実施など理解度が実感できる工夫を図る。